

大阪・梅田

自粛初日いつもの混雑

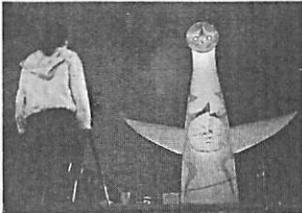
コロナ拡大、不安視する声

大阪府で新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、不要不急の外出自粛要請が4日から始まった。だがJRや阪急、阪神などの鉄道が乗り入れる大阪の中心街・梅田では、通勤時間帯はいつも変わらず混雑する。人々からは感染拡大を不安視する声が聞かれた。

梅田の交差点には信号待ちの密集した人の群れがで、ロータリーにはバスを待つ人が行列を作った。西宮市の会社員藤井敏夫さん(61)は「仕事ではどうしても大阪にこないといけない。一人一人が対策をしているはずなのにこの感染者数は怖い」。男性会社員(19)も「仕事柄、テレワークはできない」と諦め顔だ。国土交通省によると、京



「大阪モデル」の警戒度が「赤信号」に引き上げられ、赤色にライトアップされた太陽の塔。3日夜大阪府吹田市



「大阪モデル」の警戒度が「赤信号」に引き上げられ、赤色にライトアップされた太陽の塔。3日夜大阪府吹田市

口東梅田駅近くのビルで喫茶店を営む新里正彦さん(72)は「ゆっくりしたいお客さんが来るのは夜だったのに、早く帰る風潮ができてしまったのがつらい。補償も少なく来年まで持ちこたえられるか」と嘆いた。府は3日、独自基準の「大阪モデル」を初発。府民に対し、不要不急の外出自粛を求めた。

マスク拒否し暴言/時短にクレーム2時間超 コロナ、客から嫌がらせ経験2割

新型コロナウイルスに関連したカスハラ被害経験 ※UAセンセンの調査による



被害の大きかった業界	割合
ドラッグストア	66.6%
スーパー	43.0%
総合スーパー	40.7%
ホテル・レジャー	35.8%
住生活関連	34.1%

労働組合「UAセンセン」は、スーパーマーケットやドラッグストアなどの流通やサービス業に従事する組合員のうち、20・3%が新型コロナウイルスに関連して客からの

スーパーや病院サービス業労組調査

嫌がらせ「カスターハラスメント」(カスハラ)を受けていたと発表した。マスク着用を求めた際、大声で拒否されたり暴言を吐かれたりしたケースなどがあつた。対面でのサービスが求められる業界では被害が大きく深刻だった。調査は7・8月、組合員約2万6千人を対象に実施。被害を受けた人のうちコロナの影響があつたと答えたのは、種別に、ドラッグストア66・6%、スーパーマーケット43・0%、総合スーパー40・7%と続いた。主な事例として「『園がうつるから近よるな!』と暴言」(総合スーパー)、「見舞券に面会禁止を説明したら『それは分かっている』と、それが70・3%だった。

嫌がらせ「カスターハラスメント」(カスハラ)を受けていたと発表した。マスク着用を求めた際、大声で拒否されたり暴言を吐かれたりしたケースなどがあつた。対面でのサービスが求められる業界では被害が大きく深刻だった。調査は7・8月、組合員約2万6千人を対象に実施。被害を受けた人のうちコロナの影響があつたと答えたのは、種別に、ドラッグストア66・6%、スーパーマーケット43・0%、総合スーパー40・7%と続いた。主な事例として「『園がうつるから近よるな!』と暴言」(総合スーパー)、「見舞券に面会禁止を説明したら『それは分かっている』と、それが70・3%だった。

12月4日 金曜日
神戸新聞夕刊分

人はやはり弱いものです。一度目は頑張り、二度目以降は「踏んばらねば」と思っても、どこかに「大丈夫に違いない」と自分に言い聞かせ、あるいは妥協してしまふ。我漫できない分、過ぎた方を工夫ができれば、また違う結果かもしれないか、今はどうも仕方ないの方向に進んでいるよ。